

特集
授業時間, どう確保する?

新連載
今日から使える!
Classroom English



旅のことば
石川直樹

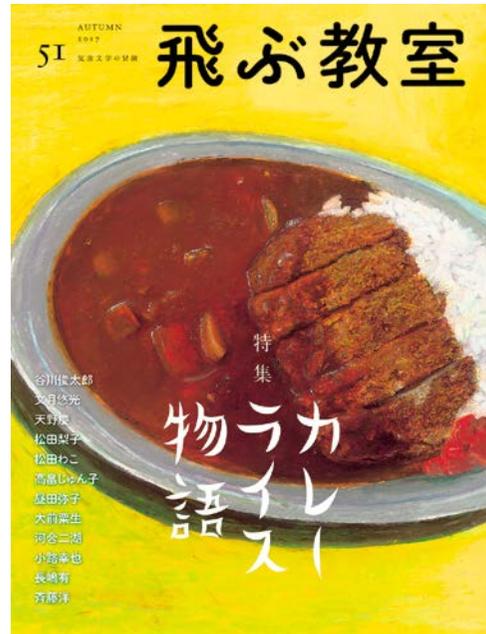
こう使う!
COLUMBUS 21
神奈川県横浜市立
老松中学校

子どものための
BOOK GUIDE
LEMONS
ARE NOT RED

この冊子は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっって配布しております。

児童文学の冒険 **飛ぶ教室**

年4回(1・4・7・10月25日)発行



最新号
第51号
(2017年秋)

特集「**カレーライス物語**」

みんなが大好き、「カレーライス」。
この一皿から果たしてどんな新しいお話が生まれるか!?
「飛ぶ教室」風カレーライスを、
ペコペコのおなかを用意して、ぜひどうぞ。

表紙 ● 加藤休ミ
詩 ● 谷川俊太郎 / 文月悠光
短歌 ● 天野慶 / 松田梨子・わか
童話 ● 高島じゅん子 / 屋田弥子
超短編 ● 斉藤洋
短編 ● 大前粟生 / 河合二湖 /
小路幸也 / 長嶋有

定価: 本体1,000円+税 ISBN 978-4-8138-0006-4 光村図書出版株式会社

旅 のことば

ESSAY
ISHIKAWA
Naoki
No.02



石川直樹
いしかわ・なおき

写真家。東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。2000年、「Pole to Poleプロジェクト」に参加して北極から南極を人力踏破。01年、7大陸最高峰登頂を達成。人類学、民俗学などの領域に関心をもち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。写真集『CORONA』（青土社）により土門拳賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』（集英社）ほか多数。

インドの雑踏で鍛えられた英語力

今から20数年前、高校2年生の夏休みに1か月間インドとネパールを一人で旅した。もちろん海外一人旅はそのときが初めてだった。

テスト対策のために覚えた単語や文法は、いざとなるとまったく口から出てこなかった。ましてや、インドとネパールである。現地の人々の口からも教科書に出てくるようなセンテンスは一切出てこないのだった。

インド人は“R”を「ル」と発音することが多く、例えば“international”は「インテルナショナル」となる。自分から話すことも、相手の言葉を聞き取ることもままならず、現地で1か月間もよくコミュニケーションをとっていたな、と我ながら感心する。

17歳のときのインド旅行で頻繁に使ったのは“Don't cheat me. I know the price.”（ボるなよ。おれはちゃんと値段を知っているんだからね）などといった、ちょっとエグイ感じの値段交渉に関連する言葉ばかりだった。

リキシャに乗るとき、あるいは路上や露店で何かを買うときなど、正規の運賃や金額というものが一切なかった当時のインドで、まず必要なのは値段の交渉力だった。

インドの洗礼を受けたおかげで、今はアジアでの買い物はお手の物だ。押すときは押すけれど、相手を不快にさせるほどは押しすぎない。引くときは引くけれど、相手の気持ちをうまく掴みながら引く。それもこれもインドやネパールの客引きや店員から学んだものである。

最初は旅人を騙してお金をとろうなんてけしからん、と思っていたのだが、今では無理やり納得することになっている。物の価値が異なる国からやってきた他者に対して、少しでもお金をとってやろうと思うのは、彼ら彼女らの生きるための術の一つなんだろう、と。

旅先で英語を使ってコミュニケーションをとることは、つまるところ、世界の多様さを体で学ぶことにほかならないとぼくは思っている。



英語教育相談室

Mitsumura English Teachers' Resources COLUMBUS 21

2017 | No.02 | CONTENTS

旅のことば

インドの雑踏で鍛えられた英語力
石川直樹

特集

02 授業時間、どう確保する？

授業時数ってどうなるの？
東仁美

事例レポート

東京都荒川区立尾久第六小学校
京都教育大学附属桃山小学校
秋田大学教育文化学部附属小学校

連載

12 こう使う！ COLUMBUS 21 [第2回]

神奈川県横浜市立老松中学校
櫻井千寿

16 セミナーレポート

導入校が増加中！
5ラウンドシステムの最前線
神奈川県横浜市立南高等学校附属中学校
埼玉県熊谷市立熊谷東中学校
高知県立中村中学校・高等学校

18 小中をつなぐポイント [第2回]

何を学ぶ(What to learn)でつなぐ
太田 洋

20 今日から使える！ Classroom English [第1回]

褒める・励ます表現
菅井幸子

22 小学校英語 お悩み相談室 [第2回]

子どもの英語力に
差がありすぎるのですが……。
フォニックスの指導がよくわかりません。
小泉 仁

24 子どものためのBOOK GUIDE [第2回]

LEMONS ARE NOT RED
金原瑞人

授業時間, どう確保する?

2020年度から小学校で英語が教科化されるにあたり, その授業時間をどう確保するかが, 大きな課題となっています。本特集では, これから授業時数がどう変わるのか東仁美先生にお聞きし, 先行的に時間を確保して授業をしている学校をご紹介します。

撮影: 伊東俊介 (P2-4, 8-9), 鈴木俊介 (P5-7)



授業時数ってどうなるの?

小学校外国語・外国語活動の授業時数に関わるさまざまな疑問について, お聞きしました。

回答者: **東仁美** 聖学院大学欧米文化学科准教授
ひがし・ひとみ 児童英語教室を主宰するかたわら, 長年母親ボランティアとして小学校英語活動の指導に関わる。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。『小学校英語 はじめる教科書』(mpi松香フォニックス)を2017年12月に発行予定。



Q1 授業時数はどう変わりますか。

A1 3年生以上で, 2020(平成32)年度から年間35時間増えます。また, 移行期間である2018(平成30)・2019(平成31)年度は, 年間15時間増えます。

2020年度から全面实施となる新学習指導要領では, 現在, 5・6年生で行われている年間35時間の外国語活動が, 3・4年生に前倒しになります。5・6年生では, 外国語が教科として導入され, 授業時数は年間70時間となることが示されました。学習指導要領の改訂により, 3年生以上で, 年間35時間, 授業時数が増えることになります。

また, 新学習指導要領の円滑な実施に向けて, 2018・2019年度は移行期間となります。この2年間は, 3・4年生で年間15時間, 5・6年生

で年間50時間の授業実施が標準となります。つまり, 3年生以上で, 年間15時間, 授業時数が増えることになるのです。そのため, 年間総授業時数及び「総合的な学習の時間」の授業時数から, 15時間を減じ, 外国語の授業に充てることができるという特例が, 文部科学省から出されています。

なお, 移行期間には, 新学習指導要領の内容を一部必ず取り扱うとされています。それまでに, 文部科学省が開発している新教材が全国の小学校に配布される予定です。

	移行期間			全面实施
	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(平成31)年度	2020(平成32)年度
3・4年	0	15	15	35
5・6年	35	50	50	70

※数字は, 年間の外国語・外国語活動の授業時数。1単位時間は45分。

Q2 授業時間を どうやって確保すればよいですか。

A2 短時間(モジュール)学習や60分授業も視野に入れて、
学校の実態に合わせた授業時間を設定しましょう。

年間の授業日数を増やして授業を行う場合は、土曜日の活用や長期休業期間の調整などが考えられます。その体制整備には教育委員会など、行政機関の主導が期待されます。

年間の授業日数を増やすのが難しい場合は、15分×3などの短時間(モジュール)学習や60分授業を設定することが考えられます。

短時間学習では、朝の時間、昼休み前後、放課後の時間など、学校の実態に応じて、創意工夫して設定することが求められます。

短時間学習には、児童が外国語に繰り返し触れられるというメリットがあるので、語句や基

本的な表現を繰り返し聞いたり話したりする活動や、文字を読んだり書いたりする活動ができます。外国語科の特質をふまえ、45分のまとまりのある学習と関連づけて設定することが大事です。

60分授業では、単元の最後に意味のある場面や状況を設定し、深まりのある言語活動を行うことやパフォーマンス評価の時間に充てることも考えられます。

授業時間の設定には、学習内容や時間のまとまりを見通し、指導内容の決定や指導の成果の把握と活用を行う体制の整備が必要です。

Q3 これから教師がすべきことは何ですか。

A3 学校全体で、外国語の時間を確保する計画を立てましょう。

増える授業時数を、全教育課程のどの部分に収めるかは「カリキュラム・マネジメント」であり、教職員全員で考えていくことが必要です。ぜひ来年度から、管理職を中心として、時間を確保するための体制づくりを学校全体で進めたものです。

どのように時間を確保するかを検討するうえで、小学校外国語科の目標や内容の把握は不可欠です。校内研修などを通して「小学校学習指導要領解説 外国語編」や「研修ガイドブック」など資料の読み合わせを行い、学校全体で指導体制の確立を旨とすといでしょう。

それでは、実際に学校の事例を見てみましょう



事例レポート

高学年において、年間70時間を確保して授業を行っている学校取材しました。どのように時間を設定したのか、限られた時間で効率的に授業を行うために工夫していることは何か、などをお聞きしました。



特集
授業時間、
どう確保する?

事例1 東京都荒川区立

尾久第六小学校

教師も子どもたちも取り組みやすい15分の学習

週1時間(45分)+短時間学習(15分)×週3回



担任一人でも行いやすい「短時間学習」

「英語が不得手なので、短時間学習のほうが、気負わずに授業ができます」。そう話すのは、荒川区立尾久第六小学校で6年生を担当する石塚克紀先生。英語の専科ではないそうだが、子どもたちのため、前向きに英語の授業に取り組んでいる。

東京都荒川区は、「荒川区小学校英語科指導指針」に基づき、区内の全小学校の全学年で教科として英語の授業を行っている。同校では、2016年度まで全学年で週1時間(45分)の授業を行っており、今年度からは文部科学省の外国語教育強化地域拠点事業の拠点校として、週1時間の授業にプラスして、短時間学習(15分)を取り入れている。

短時間学習を導入した経緯を、石塚吉之校長

はこう話す。「週1時間の授業は、学級担任、NEA(Native English Assistantの略。ALTのこと)、区から派遣される英語アドバイザーの3名で行っています。しかし、もう1時間増やすとなると、その増えた分については、予算の関係でNEAやアドバイザーに来てもらうことができません。担任が一人で45分の授業を行うことになり、その負担は大きいのではないかと思います。そこで、45分を週3回に分けることにしました。15分だったら、担任一人でも取り組みやすいのではないかと考えたんです」。

同校では長年、5時間目の前に「マスタートタイム」という漢字や計算のドリル練習等を行う習熟の時間を10分設けている。この時間を5分拡大して、短時間学習に充てることにした。週5回の「マスタートタイム」のうち、中学年は1回、高学年は3回が英語の短時間学習となる。



コンパクトでも充実した時間

実際に、6年生の短時間学習を見学させてもらった。始業のチャイムが鳴り、"Hello, everyone! How are you?"と石澤先生が投げかけると、子どもたちが声を合わせて、"I'm fine, thank you. And you?"と応じる。先生は"I'm happy, because I have new pants!"と、自分が履いているズボンを指し、おどけてみせた。子どもたちは"Wow!"と言いながら笑う。

45分授業の場合は、"How are you?"と教師が尋ねた後、"I'm hungry." "I'm sleepy."などと、それぞれの気持ちを答えさせ、さらにその日の天気や曜日についても尋ねるが、短時間学習では思い切って割愛し、すぐに本題へ入る。

同校では、短時間学習を「45分授業で習得した力を活用してチャレンジする時間」と位置づけ、高学年では、Oxford Reading Treeという多読教材を使い、読んだり書いたりする活動を行っている。この日も、あいさつの後にOxford Reading Treeのテキストを配付し、なぞり読みをした後、音声聞きながら穴埋めプリントに単語を書き進めていった。短時間学習は、手順がある程度決まっているため、皆スムーズに次の活動に入っている。子どもたちの集中力は途切れることなく、15分の学習が終わった。



短時間学習の様子。子どもたちも石澤先生も元気いっぱい。

教師どうして授業を見合う

楽しく授業を進行していた石澤先生だが、「短時間学習を始めた頃はどうか教えていいかわからず、試行錯誤する日々でした」と話す。

短時間学習を導入した当初は、まず英語主任の教師が中学年以上の各クラスに入って、15分の授業を実際にやってみせたそう。その後は、各学級担任が、他のクラスの授業を見に行くなど、教師どうして学び合いながら授業づくりをしていった。石澤先生も「他の先生の授業を見に行ったことが、自分の授業を考える際にたいへん役立った」と語る。

尾久六小の 手作り教具 あれこれ



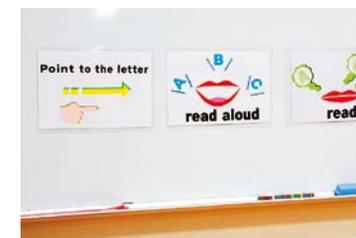
※今回の授業でも使われた4線のボード。使用頻度の高い教具だ。



ミニホワイトボードに、4線を書いた透明のシートを貼ったもの。児童一人に1枚用意。



英語教室にはロッカーがあり、学習内容別に教具を収納。教具は引き出しごと持ち出して活用している。



授業中によく出す指示を、パウチ加工してマグネットを付け、黒板に貼れるようにしている。



特集
授業時間、
どう確保する?

「教具には、なるべく他の授業を見に行くように言っています。そこから学べることは多いでしょうから。45分授業を見に行くのは時間的に難しいですが、15分だったらなんとか時間がつくれます。また、低学年の担任や専科の教員にも、授業見学を勧めています。いつ、その教具が短時間学習を任されるかわかりませんからね」と、石塚校長は話す。

手作りの教具を活用

また、同校で目を引くのが、手作りの教具だ。石澤先生は授業の中で、4線が書かれたボード（※上写真参照）を使っていたが、実はこれも手作り。白いマグネット板に、4線を書いた透明のシートを貼って作ったそう。英語教室には、さまざまな教具が用意されており、教師は授業内容に応じて、適宜活用する。

ただ、短時間学習は一斉に授業が行われるため、教具が足りず困る場面もあるそう。今までは、1クラス分作って使い回していたが、短時間学習では5・6年で4クラス分必要となる。今後は、教具の数を多めに用意していかなければならない。

短時間学習がスタートして半年が過ぎた同校。今後、15分という限られた時間をどのように深化させていくか楽しみだ。



合間にジャンケンをする時間を入れるなど、短時間でも子どもたちを楽しませる工夫をしている。

時間の設定

- 5・6年▶週1時間(45分)+短時間学習(15分)×週3回
- 3・4年▶週1時間(45分)+短時間学習(15分)×週1回
- 1・2年▶週1時間(45分)

短時間学習は、昼休みと5時間目の間(13:30~13:45)に設定。もともとこの時間は、漢字や計算のドリル練習等を行う「マスタータイム」として使っていた。週5回の「マスタータイム」のうち、高学年は3回、中学年は1回を英語の短時間学習に充てることに。

ここを工夫

- 教師が他のクラスの授業を積極的に見学し、授業改善につなげる。
- スムーズに授業が進められるよう、手作りの教具を活用。



事例2

京都教育大学附属桃山小学校

小さな活動を組み合わせたメリハリのある授業

週2時間(45分×2)

あつという間の45分

「やったー!」。5年生の教室から、どよめくような子どもたちの歓声。ここは京都市伏見区にある京都教育大学附属桃山小学校。英語の授業では、いつも楽しいゲームが行われ、子どもたちの明るい声が廊下まで響き渡っている。

文部科学省の外国語教育強化地域拠点事業の拠点校に指定されている同校では、2014年度より高学年において「英語科」を新設し、教科として週1時間(45分)の英語の授業を行っている。さらに2015年度からは時数を増やし、週2時間(45分×2)の授業を行っている。

「短時間学習を行うことも検討しましたが、朝の時間は全学年で取り組んでいる20分の『スピーチタイム』があるため、組み込むことが難しかったんです。それに、細切れで短時間学習を行うよりも、10～15分程度の小さな活動を、45分授業の中でつながりを意識しながら行ったほうがよいのではと考え、総合的な学習の時間を週1時間、英語に充てることにしました」と語るのは、英語専科の山川拓先生。



英語のゲームで盛り上がる5年生の子どもたち。

この日見学させてもらった5年生の授業は、単元『『夢の時間割』を作ろう』の第3時。この単元では、将来なりたい職業のためにどんな勉強をしたらよいか考えて「夢の時間割」を作る。そして、単元の最後には全員の前で発表をするという。

本時では、毎時間行っている、歌と「Today's Letter」の活動の後に、時間割を作るために、教科名をおさらいする活動を設けた。「ただフラッシュカードで教科名を読み上げていくのでは、子どもたちはすぐに飽きてしまいます。で

すから、全員で教科名を確認した後に『キーワードゲーム』(※)を入れることにしました」。先生のねらい通り、子どもたちは大興奮で取り組んでいた。ゲームの後は、異文化理解のために、海外の子どもたちの学校生活を紹介したりスニング教材を使って、聞き取りの活動を行った。その後、動画を視聴。メリハリのある楽しい授業に、45分があつという間に感じられた。

TTで柔軟に授業を進行

同校の英語の授業は、山川先生、ALT、学級担任の3名で行われる。山川先生は授業のコーディネートや教材作りを担当、ALTは授業の進行や発話を担当、学級担任は机間指導をしたり、デモンストレーションをしたり、時には一つのコーナーを担当したりする。

「学級担任には、他校に異動になっても困らないよう、一人で授業ができる力をつけてほしいと思っています」と山川先生は話す。その思いを汲むかのように、5年担任の若松俊介先生は、子どもたちの反応を見ながら、ALTのサポートに入ったり、机間指導をしたり、柔軟に動いていた。3人の先生の絶妙なチームワークによって、笑い声の絶えない楽しい45分授業が生み出されているのだと実感した。

※キーワードゲーム
ペアになって二人の間に消しゴムを一つ置き、手を頭の上に乗せる。教師が言う単語を発音し、教師がキーワードを言ったら素早く消しゴムを取り合う。



奥から順に、ALTのJason先生、山川先生、担任の若松先生。

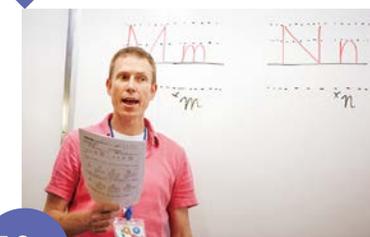
本時の流れ(45分)



5分

あいさつ&歌

今日の天気、日付、曜日など確認した後、みんなで英語の歌をうたう。



10分

Today's Letter

アルファベットを学習するコーナー。この日はMとN。発音を確認し、なぞり書きをした後、MとNで始まる単語を集めた。



15分

教科名を確認

既習の教科名をおさらい。「キーワードゲーム」で大盛り上がり。



15分

異文化理解&自己評価

海外の学校生活を紹介した音声聞き取った後、内容をみんなで話し合った。その後、動画を視聴。「自己内省シート」で今日の授業を振り返って、終了。

時間の設定

5・6年▶週2時間(45分×2)

3・4年▶週2時間(45分×2)

1・2年▶週1時間(45分)

総合的な学習の時間の一部を充てて、上記の時間を確保している。

ここを工夫

●10～15分の活動を組み合わせて、45分授業を構成。

●TTでは役割分担を決め、補完し合いながら授業を進行。



特集
授業時間、
どう確保する?



事例3

秋田大学教育文化学部附属小学校

45分授業とのつながりを意識した短時間学習

年間55時間(45分)+短時間学習(15分)×週2回

45分授業と連動した15分

「短時間学習は、45分授業とのつながりを大事にしています」と話すのは、秋田大学教育文化学部附属小学校(秋田県秋田市)で、5年生を担当する石田智之先生。もともと英語の専門ではないが、日本人学校での勤務経験などから国際理解教育に関心が高く、今は「外国語活動部」として、全学年の年間指導計画の作成等を行う。

同校では、2007年度より5・6年だけでなく、1~4年でも余剰時間を使って「英語活動」を実施。5・6年生では、週2時間(45分×2)の「外国語活動」を実施している。さらに、2014年度より、これまで全学年で週5回、朝の15分間「チャレンジタイム」として国語や算数のドリル練習等をしていたうちの2回を、外国語活動の短時間学習に充てている。

同校の特徴は、短時間学習を45分授業の内

容と連動させている点だ。そのため時間設定も工夫しており、高学年の場合、火曜と水曜に行われる短時間学習を挟むような形で、月曜と金曜に45分授業を設定している(P11 下図参照)。

5年生の単元「他のクラスの『好きな○○ランキング』を探ろう」を例に見てみよう。この単元は、"What ___ do you like the best?" "I like ___."という既習表現を使って、友達に好きなものをインタビューし、グループごとにクラスの好きなものランキングを作成。その後、他のクラスの児童に "What's this?" "It's a ___."という新出の表現を使って、ランキングクイズを出題するという内容である。短時間学習では、45分授業でやりきれなかったインタビューを行ったり、ランキングの集計をしたりする。

短時間学習の冒頭で、石田先生が「前の時間の続きをしますよ」と投げかけると、子どもたちが、すかさず「インタビューだね!」と言



短時間学習では、友達に既習表現を使ってインタビュー。

い、活動に取りかかっていたのが印象的だった。45分授業とのつながりを子どもたちもしっかり意識しており、やるべきことがわかっている。そのため、15分をいっぱい使って、楽しそうに友達にインタビューをしたり、ランキングの集計をしたりしていた。

たくさんの人と交流できる時間

また、この単元の最後には、他のクラスに出向き、ランキングクイズを行うそうだ。「短時間学習のよい点は、全校一斉に行うため、他のクラスや他学年と交流できること。例えば、5年生が外国語活動の時間に手作りした英語のゲームを使って4年生と一緒に楽しんだり、6年生が1年生を招待して英語劇を披露したりしたこともあります」と石田先生。

同校が短時間学習を取り入れて丸3年が経つ。導入した当初は、初めてのことにとまどう先生



グループでインタビュー結果を集計。表情は真剣そのもの。

も多かったが「子どもと一緒に学んでいこう」という気持ちで取り組み、現在のスタイルに落ち着いた。

外国語活動では、何よりコミュニケーションを大事にしたいと石田先生は話す。45分授業と連動した短時間学習の活用は、子どもたちのコミュニケーション力を確実に伸ばしているに違いない。



45分授業では、ALTと一緒に新出の表現を学ぶ。左が石田先生、右がALTのMark先生。

時間の設定

- 5・6年 ▶ 年間55時間(45分)+短時間学習(15分)×週2回
- 3・4年 ▶ 年間15時間(45分)+短時間学習(15分)×週2回
- 1・2年 ▶ 年間6時間(45分)+短時間学習(15分)×週2回

短時間学習は、朝の15分間(8:30~8:45)を使って火曜日と水曜日に全学年一斉に行う。

5・6年は、委員会活動のない月曜日6校時にも外国語活動を行い、短時間学習と合わせて年間70時間以上を確保。

月曜日が祝日となったり、短時間学習の時間帯が学校行事と重なったりしても、無理なく70時間程度実施できる計画となっている。

ここを工夫

- 短時間学習は、45分授業とのつながりを意識した内容に。他のクラスや他学年と交流する場としても活用。



高学年の活動イメージ



こう使う!

COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE ②

ストーリー性に優れていると好評をいただいている

中学校の英語教科書『COLUMBUS 21』。

現場では、どう評価され、どのように使われているのでしょうか。実際に使用している学校取材し、先生のインタビュー(前半)と授業レポート(後半)の2部構成でご紹介します。



横浜市立老松中学校



神奈川県横浜市西区にある公立中学校。1947年創立。各学年3~4クラス、410人の生徒が学ぶ。近くには野毛山動物園や古くからの繁華街である野毛町がある。横浜市では1999年度から市内全343校の小学1~6年生の児童を対象に英語教育を実施しており、現在在籍する生徒たちのほとんど全員が小学1年生から英語に触れている。

桜井千寿先生

横浜市立老松中学校 英語科教諭

大学院では英文学を専攻。大学院修了後、横浜市内の公立校に勤務し、2015年より現職。14年より横浜市教育課程研究委員会 YICA (Yokohama International Communication Activities)・外国語科専門部会委員を務める。

何度も繰り返して使う

『COLUMBUS 21』が、全編を通してストーリー展開している」と聞いて、最初はその意味も使い方もよくわかりませんでした。でも授業を進めていく中で、生徒に気づかされたことが多かったんです。「タクっていい人だよ」とか「この台詞はちょっと思わせぶりの発言じゃない?」とか、言い始めるんですよ(笑)。みんなドラマを見るようにストーリーを読んでいて、1年生の生徒が、続きが知りたいからと、お兄ちゃん、お姉ちゃんに教科書を借りて読んでいる姿も目にします。3年生にもなると、教科書の登場人物はもう友達感覚。最後の授業では、登場人物から一人を選んで3年間を振り返るタイムラインを作り、手紙を書くという授業

をしたんですが、「ミンホ、韓国でがんばってる?」などと、嬉々として取り組んでいました。

英語が苦手な生徒も含め、みんながストーリーを覚えているので、**教科書の前の場面に戻って復習がしやすい**んです。場面をフックに、「夏祭りで、誘う表現あったよね?」などと促すと、生徒はすぐに該当するユニットに戻って、「あ、そうだった!」と確認をする。**何回も繰り返し本文に触れることで、文法表現や単語などが定着していく**んです。本校では、**1年間で2回教科書を繰り返し、1,2年の教科書は次の学年でもう1回**。3回繰り返し、3年生には3冊すべて持たせるようにしています。

「自然な会話」を意識させる

1年生は特に、「積み重ね」の時期なので、

雑多でもいいからインプットを増やしていくべきだと考えています。また、1学期は小学校からの「つなぎ」も意識しなければなりません。ここ横浜市の中学生は、小学校1年生から英語に触れてきているので、英語を聞く姿勢が育っています。それを試し、育てるためのウォーミングアップにも教科書を活用しています。

特に、**重視しているのが「自然な会話」のイメージづくり**です。中学校に入って、これまでただ口にしてきた英語表現を、英語と日本語の意味を一致させながら覚えていくようになります。例えば、「Do you like apples?」という表現は通常「あなたはリンゴが好きですか」と訳しますが、生徒に「リンゴ好き?」と聞いて、これを英語で言ってもらおうとすると、「ん?」と一瞬悩みます。つまり、日本語は主語を省くという感覚が、すぐにはつかめないんですね。この違和感のようなものを、少しでも減らしたいと思って、「教科書本文の会話を『自然な日本語』の会話にして練習し、もう一度その日本語から英語の会話にして練習する」というウォーミングアップをしています(次ページの授業も参照)。英語と日本語の構造の違いに気づいてもらうことと、日常会話の雰囲気そのままに英会話ができるようになることがここでのねらい。イントネーションも、CDなどで繰り返し指導するよりもスムーズに定着しますし、将来的に、自らのことを発信する場面でも、「英語でどう表現するのか」素早く考えられるようになるのではないかと思います。

生徒たちは、最初は「自然な日本語」の会話にするとすることに抵抗を感じるようなのですが、Unit 2回分ほどですぐに慣れてしまいます。最後に英語の会話に戻るとき、「このノリでこのまま英語で読むよ」と言うと、教科書の登場



1年 Unit9 球技大会で助け合う、タクとミンホ。



2年 Unit7 バンド練習で、タクとミンホが大ゲンカ。



2年 Unit9 バレンタインデーに、アヤはミンホにチョコをプレゼント。

アヤ、タク、ティナ、ミンホという4人の中学生が、友情、仲たがい、ロマンスなど、さまざまな出来事を経て、中学3年間で成長していくストーリー。等身大のキャラクターに、生徒たちは感情移入して読み進める。

人物たちを演じるように読み始めるんです。**ストーリー性のある教科書だからこそできること**ですよ。こうした授業を通して、登場人物たちの個性、性格が生徒に浸透していく。いやむしろ、**生徒たちが登場人物たちの性格付けをしていける教科書**というべきなのかもしれません。等身大の登場人物たちと学べるというのがすごく楽しいでしょうね。生徒たちはみんな、この教科書が大好きなんですよ。

桜井先生の授業は次のページでご紹介!

こう使う!
COLUMBUS 21
ENGLISH COURSE

櫻井先生の授業を レポート!

1年3組(生徒数:35名)
学習内容:Unit5 導入(第1時)
本時の目標:Unit5のストーリー理解



“Good morning!”教室に櫻井先生のよく通る声が響く。その日は金曜日。“How do you spell ‘Friday?’”と問いかけると、「F, R, I……」, 生徒たちの声も先生に負けじと大きくなった。曜日と日付, 天気のスベル確認を終えた後は, アイスブレイクに歌をうたう。この日は, The Carpentersの*Top Of The World*だ。生徒たちは, 身体でリズムを取りながらうたっていた。

[ウォームアップ]
本文の会話を「自然な日本語」に

副教材を使ったドリル練習を行った後, 教科書を使ったウォームアップ。次に示す既習のUnit3 Part3本文の復習だが, 櫻井先生の取り組みはとてもユニーク。なんと, 生徒が思い思いに訳

した「自然な日本語」を用いて, ペアで会話練習をするのだ。

【Unit3 Part3本文】
Taku: Here you are, Tina.
Tina: What's this?
Taku: It's your school badge.
Tina: A badge?
Taku: Yes.
Tina: Oh, I see. Thank you.
Taku: You're welcome!

ペアで役を交代しながら約5分。“Any volunteers?”と櫻井先生が問いかけると, 複数の

今日の
授業はココ!

●Unit5 A Summer Festival

本文の内容: 音楽好きの4人はバンドを結成。そして迎えた夏休み。4人は待ち合わせて夏祭りに向かう。

時	内容
第1時	導入 ★
第2~7時	Partごとに、(文法の導入と単語の導入) (本文の内容理解とポストリーディング、フォローアップ活動(「Try It!」など))各1時間
第8時	文法(「You Can Do It!」など)
第9時	アウトプット活動(ALTを交え、教科書の題材を用いたスピーチなど)

手が挙がり, 一組目のペアが発表。

生徒1 はいよ, ティナ。
生徒2 なにこれ?
生徒1 学校のバッジ。
生徒2 バッジ?
生徒1 うん。
生徒2 あーなるほどね, ありがとう。
生徒1 いいよ, ぜんぜん!

続けて複数のペアが発表。どの生徒も, 普段話さような言葉でうまく訳していた。中には, ティナのキャラクターイメージを再現しようとする生徒や, 大きなジェスチャーをつける生徒も。ユニークな発表に教室が盛り上がったところで, 「じゃあみんな, このノリそのままに英語で読んでみようね」と櫻井先生。生徒たちの音読は, 感情豊かで, 「自然な会話」そのものになっていた。

[Unit5の導入]
課題を意識して聞く

いよいよ本時の内容, Unit5の導入に入る。櫻井先生は, 生徒たちに教科書の扉のページを開かせると, “Do you like summer festivals?”と聞いた。偶然にもこの日地域で縁日が開かれるということで, “Yes. Today!”という元気な声。“What do you do?” “What do you eat?”と続けて投げかけると「I eat かき氷」「I play 金魚すくい」など, 次々と声があがった。

ここで, すかさず櫻井先生が“How about Aya?”と問いかけながら, 黒板に7枚のピクチャーカードを貼った。生徒たちにも同様にカードのイラストがランダムに印刷されたプリントを配付。「タスク1 本文を聞いて, 話の内容に合うようにA~Fの絵を並べ替え, ()に順番に数字を書きましょう」と書かれている。



Unit3 Part3の本文をペアで会話練習。タクとティナになりきり、「自然な日本語」に訳そうとする生徒たち。

櫻井先生は, 教科書を閉じさせ, CDでUnit5の本文全文の音声を流した。プリントの絵を見ながら本文を聞く生徒たちの姿は真剣そのもの。繰り返し2回聞いた後, ペアで話し合い, 全員で答え合わせを行った。

意見が割れるところがあったので, もう一度全員でCDを聞いてみることに。無事満場一致で絵の並べ替えができたところで, 櫻井先生が解答プリントを配付した。ここで, 授業終了を告げるチャイムが。プリントの裏側には, 「タスク2 それぞれの絵が表す場面をよく表している言葉を聞き取って, 周りの人と話してみよう」とあったが, これは次時に行くこととなった。

まさにあっという間の50分。生徒たちの集中も一切途切れず, 盛りだくさんの内容だった。



1年Unit5の扉。

「Sherpa 特別セミナー 5ラウンドシステム実践校大集合」

日時:2017年8月10日(木) 場所:市ヶ谷大郷ビル5階

中学校の英語の教科書を1年間で4~5回繰り返して学ぶ「5ラウンドシステム」をご存じですか? 横浜市立南高等学校附属中学校から生まれたこの学習法は、目覚ましい成果を上げ、全国に広がりつつあります。去る8月に、この5ラウンドシステムを実践している学校が集結し、そのメリットと課題を共有するセミナーが開催されました。

Introduction
5ラウンドシステムってどんな授業?

セミナーでは「5ラウンドシステム」の解説からスタート。この学習法は西村秀之先生(横浜市教育委員会 国際教育課)が横浜市立南高等学校附属中学校に勤務していた頃に考案したものの。英語学習の初期段階において、多くの英語を聞かせること、何度も言語材料に触れさせることが大事なのではないかという思いから、教科書の全ユニットを4~5回繰り返して学ぶ5ラウンドシステムを考え出した。教科書の本文をリスニング、音読、リテリングなど、学習の重点項目を変えてスパイラルに学ばせる。繰り返し教科書の本文に触れさせることで定着をはかり、最終的には、生徒たちがその英文を自在に操って自己表現できることを目標としている。

Case Study
実践校での方法や課題をシェア

実際に5ラウンドシステムを行っている3校の実践例が紹介された。いずれも、学校の実態に合わせて、よりよい方法を探りながら進めている。

Case.1 横浜市立南高等学校附属中学校
伝えたい姿勢を育む5ラウンドシステム

「自分の言葉で自己表現できる生徒の育成」を英語科の目標に掲げている。

5ラウンドシステムでは、教科書の本文を聞く・読む・書く量が圧倒的に多いため、生徒たちに教科書本文を自己表現で使えるレベルまでに染み込ませることができる。

基本的に5ラウンドシステムでは、文法項目は使わせながら確認していく。文法をじっくり

と説明したくなる場面もあるが「我慢する」姿勢が大切。また、保護者の理解を得ることに、心を砕く必要がある。

5ラウンドシステムの先駆けとなり、他校の視察も多いが、皆一様に生徒たちの発話の多さに驚くという。このシステムを導入して6年目。生徒たちの「伝えたい姿勢」「伝えられる力」が着実に育まれている。

Case.2 熊谷市立熊谷東中学校
生徒の気づきを重視する授業実践

平成26年度に研究指定校となり、5ラウンドシステムを導入。これまでの授業を振り返り、「インプットの量とアウトプットの場を増やすこと」に留意して、授業改善に取り組んだ。授業ではペア学習などを多く取り入れ、生徒どうしで気づき、発見する活動を重視。「教師がいか上手く教えるか」から、「生徒がいかに独力で学習する場面を与えるか」という発想の転換が必要だという。

こうした取り組みの成果は、英検3級レベル以上の力がある生徒が77.1%という数値が示している。熊谷市では、平成28年度から市内

セミナーでファシリテーターを務めた金谷憲先生。



の全中学校でこのシステムを取り入れた。

Case.3 高知県立中村中学校・高等学校
教師も変容し授業スタイルに変化が

県立の中高一貫校。英語の授業では、説明時間が長く、読む機会が少ないなどの課題があった。授業方法を模索していたところ、5ラウンドシステムに出会い、まずは中学1年生の授業で「プチ・ラウンドシステム」を導入。これは、2つのユニットを5回学習したら、次の2ユニットに移り5回繰り返す、というもの。ここで手応えを感じ、中学2・3年生、さらには高校の授業へ。高校の導入でも5ラウンドシステムは有効であると感じている。何度も繰り返し学ぶことで自然と英語力が身についていくことを、生徒たち自身も気づくようになっていった。

Discussion
参加者の関心は具体的な指導方法

セミナー終盤は、金谷憲先生(東京学芸大学名誉教授)がファシリテーターとなり、実践校の先生方と、参加者とのディスカッションが行われた。参加者からは、指導に関する具体的な質問が数多く寄せられた。

まだ始まったばかりの5ラウンドシステム。試行錯誤することも多いが、「教員どうし、語り合いながら、共通の目標に向かうことができてよかった」という意見は、実践校の先生方に共通する思いなのではないだろうか。

**5ラウンドシステムの
大まかな授業の流れ**

教科書を繰り返し学ぶため、ストーリー性のあるテキストが適している。
5ラウンドシステムの実践校では、光村図書『COLUMBUS 21』が使われるケースが多い。
およそ2か月で全ユニットを終了。これを1年間で4~5回繰り返す。

※1年生では5回繰り返すが、2・3年では「音と文字の一致」を省き、4回繰り返す。

Round 1 リスニングによる内容理解

教科書の音声を繰り返し聞く。読み書きはしない。ピクチャーカードの並び替えなどを通して話の概要を把握する。

Round 2 音と文字の一致

ラウンド1で大まかにつかんだ内容と文字を一致させる。順不同に並んだ教科書の本文を、順に並び替えさせる。

Round 3 音読

「読む」ことに重点を置いた授業を展開。一人で、全員の前で、オーバーラッピングで、など手法を変えて繰り返し読む。

Round 4 穴あき音読

本文の動詞などが空欄のワークシートを使い、穴埋めをしながら音読。この時期、文の構造を意識するように。

Round 5 リテリング

総仕上げとして、ピクチャーカードを使いながら、教科書のストーリーを自分の言葉で伝える。

第2回
小中をつなぐ
ポイント

小中連携は、英語教育の大きな課題の一つです。この連載では6回に分け、小学校と中学校の学びをどうつないだらよいか、そのヒントを述べていきたいと思います。今回は、小学校で学んだことをどう生かすかについて、ご紹介します。

小中連携のポイント

①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ

POINT 1 「あっ、習ったよこれ！」
(学んだことをもう一度繰り返す)

POINT 2 「いろいろな場面で使えるんだね！」
(中学校での学びとしてさらに使う場面を広げる)

太田 洋
おわた・ひろし
東京家政大学教授
東京都生まれ。2002年東京学芸大学大学院修了。
東京都の中学校、東京学芸大学附属世田谷中学校教諭、
駒沢女子大学教授を経て現職。
中学校英語教科書
『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の
編集委員を務める。

第1回では、小中連携の大事なポイントとして、「①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」、「②どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」、「③CAN-DOでつなぐ」の三つを挙げました。第2回となる今回は、「①何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」について、詳しくご説明します。

1. 「あっ、習ったよこれ！」

「何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」のために、まず、小学校で学んだことを中学校でもう一度繰り返す、生徒たちに「あっ、習ったよこれ！」と思い出させることが大事です。そうすることで、生徒たちは、「小学校で学んだことが中学校でも生きる」ことに気づき、「できる」という有能感をもつことができます。

今回は、「I like ~.」「Do you ~?」を例に考えてみましょう。まずは、小学校で習った場面を思い出させます。『Hi, friends! 1』のLesson 4には、「好きなものを伝えよう」という、好き嫌いを予想してインタビューするという題材(“Do you like spiders?” “Do you like milk?” など)があります。

中学校ではそれを生かし、先生が自己紹介をする場面で、「先生の好きなものや嫌いなものを知ろう」という活動をするとういでしょう。先生は、自分の好きなもの、嫌いなものを絵を使いながら話します(生徒に“Do you like ~?”を使って質問させてもいいでしょう)。次に、先生が生徒に、好きなものや嫌いなものを尋ねます(さらに「Who am I? クイズ」をしてもいいでしょう)。

2. 「いろいろな場面で使えるんだね！」

小学校で学んだことを思い出させた後は、中学校での学びとして、教科書の本文や「Try



It!」の活動を通して、同じ表現がいろいろな場面で使えることを感じさせます。中学校教科書『COLUMBUS 21』(光村図書)の1年Unit 4 P48-49(※)を例にみてみましょう。まず、P48の本文の会話を聞かせます。そして、教科書の絵に吹き出しを書き「どんな場面ですか?」、「ミンホはティナに何と尋ねていますか?」、「なぜ尋ねていますか?」などと質問します。すると、生徒たちは「新しい友達と仲よくなるために、共通点を探そうとしている」、「自分の好きなものを話題にしている」などと答えます。

次に、P49の「Try It!」に設定されている、「来日した人気歌手へのインタビューの場面」でのリスニング活動を活用しましょう。初めて

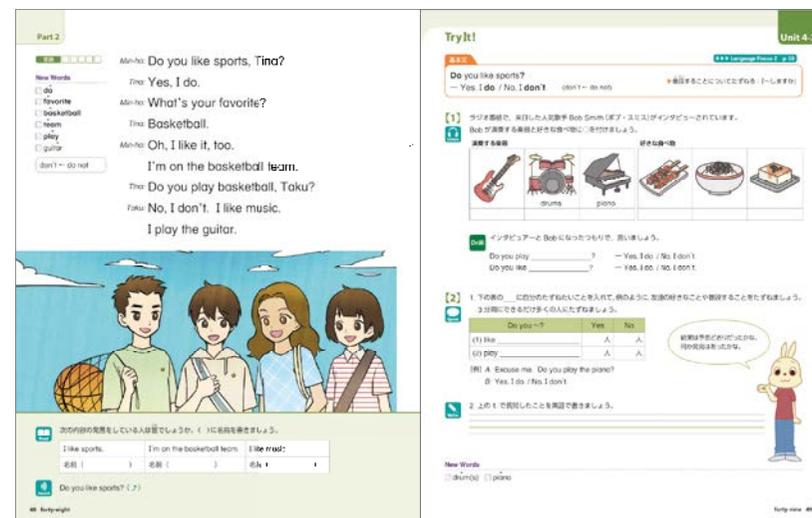
会う人にインタビューする場面でも、“Do you ~?”という表現が使えることがわかります。

このように教科書本文や「Try It!」を使って、小学校で習ってきた表現が、さまざまな場面で使われることを学びます。さらに、このリスニングの場面を生かし、「ALTの先生のことを知るためにインタビューしよう」というコミュニケーション活動をすることもできます。生徒が、ALTに“Do you ~?”を使っていろいろ尋ねる活動です。ここで、“Do you ~?”で使われる語(動詞や名詞)も、小学校で学んだことを思い出させるとよいでしょう。

* * *

生徒たちに「あっ、習ったよこれ！」と、小学校で学んだことを思い出させ、さらに、その表現を、中学校の題材を使って「いろいろな場面で使えるんだね！」と、感じさせること。この二つが今回のポイントです。

次号では、「②どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」について、詳しくご紹介します。



※『COLUMBUS 21』(光村図書), 1年Unit 4 P48-49

今日から使える!

Classroom English

Lesson 1

褒める・励ます表現

小学校の外国語活動の授業で、どのくらい英語を使っていますか？

授業を進める指示や褒め方などの英語表現をクラスルーム・イングリッシュ(教室英語)と呼びますが、英語が苦手なので、何を言ったらよいかわからない、ALTにすべてお任せ、といった方も少なくないかと思えます。しかし、担任の先生が英語を使うことで、児童も英語を身近に感じ、英語での発話を促すことにつながります。また、児童の前で先生が英語を使う姿を見せることは、「英語を使う日本人」のモデルとなります。少しずつ使える表現を増やして、自信をもってクラスルーム・イングリッシュをできるようにしましょう。

まずは、英語で児童を褒めることから始めませんか。褒められることは大人でもうれしいものです。英語という未知なものにチャレンジしているときこそ、しっかり褒めて、「英語って楽しい」「もっとがんばりたい」と思わせ、児童のやる気を引き出しましょう。

Good job!

よくできました!

児童が単語や表現をリピートしたとき、ゲームやリスニング活動が終わったときなど、いろいろな場面で使える表現です。終わりのあいさつの前に、“Good job, everyone! See you!”のように、まとめの褒め言葉としても使えます。「グッド ジョブ」のように、単語の最後の子音に、oやuなどの母音が付かないように気をつけると、英語らしい音になります。Good job!の代わりに、Great job./ Nice job.など、「よい」という意味の形容詞を置き換えることもできます。

Good listening!

しっかり聞いていましたね!

“Good!”はよく使われる褒め言葉ですが、具体的に何がよいかを褒めることも大切です。音声中心の外国語活動では、聞いている態度だけでも素晴らしいことを伝えるのにこの表現が役立ちます。他の技能や活動(writing, singingなど)に置き換えもできます。また、“Good vocabulary!”(いい単語を知ってるね!)などの英語に関したもののだけでなく、“Good teamwork!”(いいチームワークだね!)“Good idea!”(いいアイデアだね!)と参加態度や姿勢も褒めましょう。

菅井幸子 すがいさちこ

株式会社イーオン 東京本社法人部 学校教育課 教務コーディネーター

岩手県生まれ。大学卒業後、イーオン入社。

2007年より教務課トレーナーとしてイーオンスクールの教師育成に従事。15年に学校教育課の立ち上げに参加し、全国の教育委員会や学校で、教員向けの英語指導法や英語力アップの研修などを行っている。

That's right!

その通り!

児童が問いかけに正しく答えたとときや、「先生、これでいいの?」と活動の確認を求めてきたときなどに、かけてあげたい一言です。「右」を表すrightではなく、「正しい」という意味の形容詞です。That's correct.も同意です。英語にはlight(光)という単語もあり、どちらもカタカナで表記するとライトとなります。カタカナのイメージで発音してしまうと、lightに近い音になるので、書くという単語writeと同じイメージで発音ができるとよいでしょう。

Nice try!

惜しいです!／がんばりました!

児童が問いかけに正しく答えられるとは限りません。また、クイズをしているときには、正解ではないけれど惜しい答えの場合もありますね。間違っていたとしても、“No.”はできるだけ言いたくありません。そんなときに、がんばりを励ます表現がこれです。tryという単語の発音は、「トライ」のようにtとrの間に母音を入れないようにしましょう。「距離などが近い」という意味の形容詞で、“Close!”も「答えに近い=惜しい」と励ます言葉です。

You can do it!

あなたならできるよ!

児童ができるかどうか不安で発言しなかったり、恥ずかしい思いをしたくなくて、もじもじしていたりするときに使いたい表現です。“You can do it, Kazu!”などと、名前を呼んでもいいですね。Youとdoを強く読むことで、英語らしいリズムになります。クラスの人々に向けて、「できるよ!やるぞ!」という気持ちで“We can do it!”と言うこともできます。外国語活動に対して、クラスの一人一人が「私もできる!」とチャレンジする気持ちをもてる魔法の言葉です。

★ここがポイント!!

褒めたり励ましたりする表現にバリエーションがあることはもちろん大切ですが、そのときに、児童がその英語自体を理解していなくても、先生から褒められたと伝わるのが何より大切です。慣れない英語で褒めるのは恥ずかしいかもしれませんが、児童がうれしい!もっとがんばりたい!と感じるように、笑顔でアイコンタクトをとりながら、明るい声のトーンで、たっぷり間を取るように心がけましょう。

小学校英語お悩み相談室

| 第2回 |

2020年度から、教科化される小学校での英語教育。初めてのことにとまどう先生も多いと思います。先生方のそのお悩みを、英語教育のスペシャリストである小泉 仁先生が受け止めます。



QUESTION.1

子どもたちの英語の力に差がありすぎるのですが、指導で心がけるポイントを教えてください。

A 英語が得意でも苦手でも互いに活躍する場をつくらう

4年生くらいになると、子どもたちは、自分たちの間に英語力の差があることを意識し始めるようです。でも、その「差」について、教員は気にしすぎることはないというのが、私の考えです。

英語が得意な子には、モデル役を務めてもらい、クラスをリードする役割を与えてはいかがでしょうか。例えば、クラスメートが上手く発音できなかったときに、お手本になってもらうのです。中学校では、英語が得意な生徒と苦手な生徒を、あえてペアにして練習させる先生もいるのです。

いっぽうで、深く考える子ども、豊かな発想をする子どもがいます。例えば、“What’s the weather today?”と聞くと、たいいていは、“Cloudy.” “Sunny.”などと答えますが、“Cloudy.”と答えた後、「先生、『あとで雨になる』って言いたいんですけど」と質問してくる子ども

がいます。英語が得意でない子どもからそういう発想が出てきたらチャンスです。「『あと』ってどう言う?」とクラスに質問を向ければ、英語が得意な子の出番が作れます。また、得意分野で活躍の場を与えるのもいいと思います。絵を描くのが得意なら、英語の紙芝居を作る活動で絵を描いてもらう。**子どもたちのいろいろな面を知っている小学校の先生であれば、他の教科と同様、子どもたちを上手に導けるはず**です。

時に、英語が得意な子どもは、多くの単語を知っていることを自慢したくなるものですが、相手がわかるように話すことも大事だということを教えてください。学習指導要領でも、「他者に配慮しながら」コミュニケーションを図ることを目標に掲げています。友達のことを理解する力、相手がわかる言葉で話す力、ジェスチャーなど、言語以外の伝達方法を駆使する力——こういったものも含めて「言葉の力」なのだということを、ぜひ子どもたちに伝えていただきたいですね。

小泉 仁 こいずみ・まさし
東京家政大学教授

元・文部科学省初等中等教育局教科書調査官。
日本児童英語教育学会(JASTEC)会長。
一般財団法人語学教育研究所理事。
中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

どんなお悩みにも
お答えします



QUESTION.2

フォニックスについてあまりよく知りません。どのようなことを指導したらいいのでしょうか。

A 耳になじんだ語を子どもの目に触れさせよう

フォニックスは、英語の音と文字の関係を教える指導法。もともとは、英語圏の子どもたちに読み書きを教えるために開発されたものです。学習指導要領では、「発音と綴りを関連づけた指導」は中学校での指導事項とされていますから、小学校では、中学生になったときにスムーズにフォニックスが始められるよう、**英語の音と文字に慣れ親しむ工夫ができれば十分**だと思います。

外国語として英語を学ぶ日本の子どもたちにとって、まず大切なのは、音素をしっかりと認識すること。“cat”はc, a, tの文字がそれぞれ/k/, /æ/, /t/という三つの音素から成っているということを、さまざまな体験から意識の中に取り込むのです。

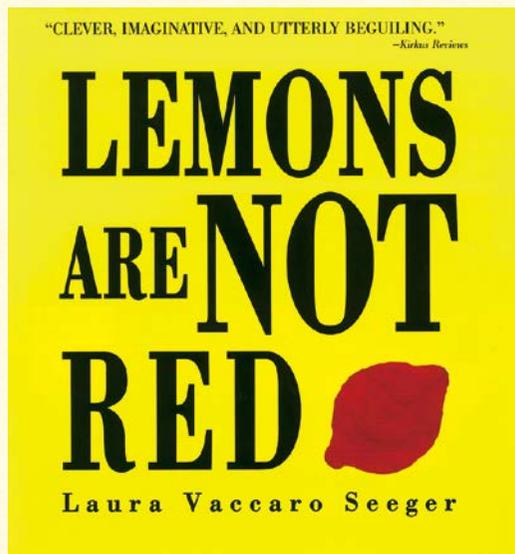
そのためには、音と文字の関係を意識させるような活動を取り入れていきましょう。例えば、onset(語頭音)あるいはrime(語尾音)

が同じ単語に着目します。“cat, bat, mat”と三つの単語を並べて、その共通性に気づかせる、あるいは、“bag”を加えて、仲間はずれを探すゲームもよいかもしれません。こうした単語を掲示板に貼り出すのも効果的です。「今週はcから始まる単語」など、テーマを決めて掲示するとよいですね。

ここで重要なポイントは、提示する単語は3~4文字程度の短い、耳になじんだものであること。カタカナ言葉として知っている単語もよいでしょう。単語と一緒にイラストを添えれば、子どもたちにも読めるはず。この「読めた!」という成功体験が大事なのです。フォニックス指導のために未習の単語を教え込むのは本末転倒です。

小学校では、教員が音と文字の関係を整理し、耳になじんだ語を子どもの目に触れさせることがまず必要です。子どもたちの読みたい気持ちを高めるように工夫し、彼らが英語を書き写したくなるまで待てたら、理想的です。

子どものための BOOK GUIDE
— 2 —



LEMONS ARE NOT RED

著者: Laura Vaccaro Seeger
出版社: Square Fish



このコーナー、2回目はカラフルでとても楽しい仕掛け絵本です。

本を開くと、黄色の見開きのページが現れます。左のページには“Lemons are not”とあって、右のページには“RED”とあります。このページ、まん中がレモンの形に切り抜いてあって、そこには次のページの赤が見えているのです。そしてページをめくると、左のページは赤一色で、切り抜かれたレモンの形のところは前のページの黄色が見えているという仕掛け。下には“Lemons are YELLOW”と書かれています。そして右のページには赤いリンゴの絵が描かれていて、その下に“Apples are RED”と書かれています。

こんなふうに、このあと

(左) Carrots are not (右) PURPLE

(左) Carrots are ORANGE (右) Eggplants are PURPLE
というふうに続いていきます。さらに、Framingos……、Elephants……ときて、次が“Reindeer are not”

“WHITE”ときます。Reindeer、複数形のsがありません。次はSnowmen、これもsがありません。

そして次に出てくるのが“Grass is not”“BLUE”。その次は“The sky is BLUE”。つまり、単数。さらに

“The moon is not” “BLACK”

“The moon is SILVER”

“The night is BLACK”

と続いていきます。

そう、この絵本は物の名前を覚えて、色を覚えて、さらに単数形、複数形の使い方を覚えて、ついでにtheがつく名詞を覚えようという、楽しい仕掛けもあるのです。だからといって、小学生に可算名詞、不可算名詞、theがつく名詞などの説明をすることはないと思います。声を出して繰り返し読めば、自然に頭に残るはずですよ。残念ながら、この楽しさは翻訳できません。

そして最後のページのしめくくりの言葉がまた、素晴らしい！ぜひ読んでみてください。

金原瑞人
かねはら みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど400点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

平成30年度
「言語教育振興財団」
研究助成金一般公募の
お知らせ

助成内容

- ① 言語教育の内容・方法に関するもの (教育内容・方法部門)
- ② 言語教育教材の質的向上に関するもの (教材部門)
- ③ 教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの (教育機器部門)

研究期間

平成30年4月～31年3月(原則1年間)

応募資格

言語教育(国語、英語、日本語等)に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体(学校の学年・教科単位を含む)、上記に準ずると見做される団体及び個人

助成件数及び
金額・助成金の使途

- ▶ 助成件数は60件程度
- ▶ 助成金額は1件につき原則として、20万～40万円
- ▶ 助成金の使途は、研究を主とするものに限ります。

一般財団法人「言語教育振興財団」では、小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象とし、今後の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育(国語教育・外国語教育等)の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

応募方法・締め切り

- ▶ 研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、平成29年12月22日(金)必着で、当財団事務局に郵送のこと。
- ▶ 「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用封筒(82円切手添付)を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。
- ▶ この応募要項については、都道府県教育委員会等の推薦の場合も同様に扱います。

決定・発表

当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果は平成30年2月末までに文書にて通知します。平成30年3月末に銀行振り込みで交付します。

問い合わせ先

一般財団法人
言語教育振興財団 事務局
〒141-0021
東京都品川区上大崎2-19-9
TEL&FAX 03-3493-7340
E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp

